

茶園におけるクワシロカイガラムシの発生活長と防除
 第1報 標高の異なる茶園における第二および第三世代幼虫の発生時期
 畑瀬房次・阿部恭洋・野方俊秀¹⁾(佐賀県茶業試験場・²⁾佐賀県果樹試験場)

Husatugu HATASE, Kyōyō ABE and Toshihide NOGATA :
 Seasonal Prevalence and Control of the White Peach Scale,
Pseudaulacapsis pentagona, in the Orchards.

1. Occurrence of the 2nd and the 3rd Larval Generations in Orchards at Different Altiyudes

1994年、佐賀県嬉野町内において、標高が異なる2～3地点のやぶきた栽培茶園で、茶の難防除害虫であるクワシロカイガラムシを効率的に防除するため、本害虫の発生活長を調査した。

1. 調査方法

1) 第一および二世世代雌成虫の産卵と卵の孵化状況

標高が80, 180および380mの3地点の茶園で、クワシロカイガラムシが寄生している樹枝を、1地点当たり50枝を採取し、1枝当たり10頭、計500頭の寄生雌成虫について産卵の有無、卵の孵化状況などを調べた。

第一世代は7月4日から8月1日また、第二世代は9月5日から9月26日まで1週間間隔で調査した。

2) 第二および三世世代雄成虫の発生活長

標高が80と380mの2地点の茶園で、1地点当たり、3箇の吸引粘着トラップを設置し、トラップガラス板面(20×20cm)に付着したカイガラムシ雄成虫を、7月6日から12月18日まで、1週間間隔で計測した。

2. 結果

1) 第一および二世世代雌成虫の産卵と卵の孵化時期

第一世代雌成虫の産卵時期は標高80m地点では7月上旬であり、これに比べ180m地点では1週間程度、380m地点では10日程度遅れた。卵の孵化時期も産卵同様に差がみられ遅くなった(第1図)。

また、第二世代雌成虫の産卵時期は80m地点で9月上旬となり、第一世代同様に標高が高くなる程、産卵とその孵化時期は遅くなるが、その差は小さかった(第2図)。

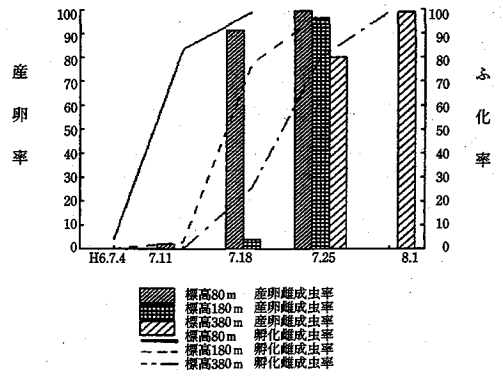
2) 第二および三世世代雄成虫の発生活長

雄成虫の発生ピークは第二世代で8月中～下旬、第三世代で10月中～11月上旬であった。各世代とも標高80m地点に比べ、380m地点では発生ピークが1週間程度遅かった(第3図)。

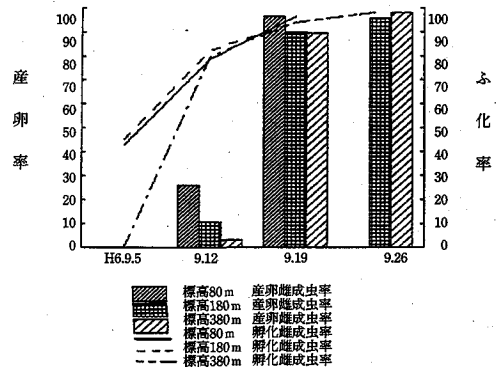
3. 考察

今回の調査結果から、嬉野地域での年間のクワシロカイガラムシの世代数は、いずれの地点でも3回であることがわかった。

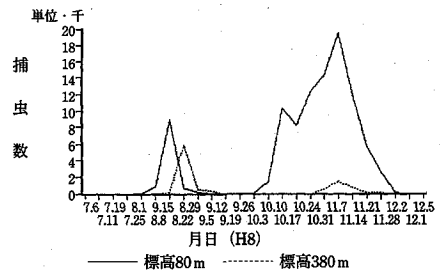
本害虫を薬剤防除する場合、各世代の防除適期は標高の差で違いがみられ、標高80m地点と比較して、200～400m地点では1～2週間遅くなることがわかった。具体的な防除時期については、1995年調査中の第一世代幼虫の発生活長を含め第2報で報告予定である。



第1図 第一世代クワシロカイガラムシの産卵雌成虫とその孵化卵を持つ雌成虫率



第2図 第二世代クワシロカイガラムシの産卵雌成虫とその孵化卵を持つ雌成虫率



第3図 標高別クワシロカイガラムシ雄成虫捕虫数の推移